

I. 主な商品名	バスアミド微粒剤, ガスタード微粒剤
II. 特性・特徴	水分と反応してガスを発生するので、土壌の乾燥は厳禁。
III. 対象病害虫	センチュウ類, つる割病, 紫紋羽病, 一年生雑草
IV. 使用法	



【事前準備】

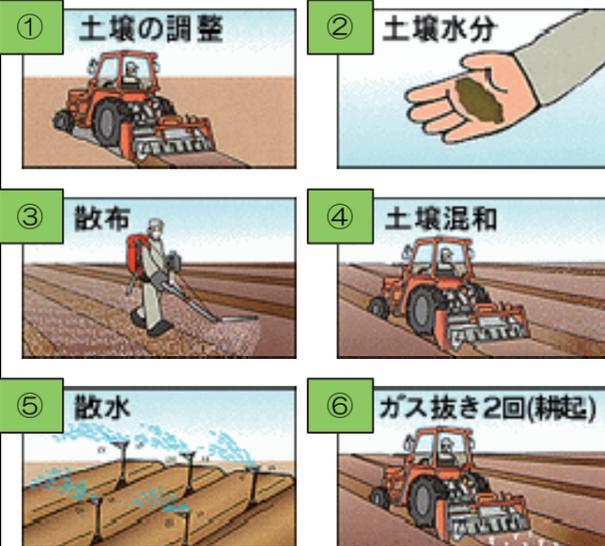
- 1 処理予定1か月前までに堆肥散布
堆肥の同時施用は不可。
(完熟堆肥であれば、処理後の施用も可)
- 2 石灰資材は処理の1週間以上前に施用し、土となじませておく。
- 3 前作の残渣は、できるだけ取り除く。



取り扱い時は、必ずマスク、ゴーグル着用

【全面土壌消毒】

- ① 処理前によくロータリーをかけて土を細かくする。
- ② 降雨やかん水により、土壌に適度な水分を確保。(握っても崩れない程度)
- ③ 植付21日前までに、20~30kg/10aを均一に散布。
- ④ 丁寧にロータリーで深部まで攪拌(できれば縦横に2回)し、鎮圧する。
- ⑤ かん水設備があれば、水をまく。ビニール等で被覆すると効果高い。被覆ができない場合は、必ず鎮圧する。
- ⑥ 処理3週間後に、ロータリー耕で1回目のガス抜きを行う。その2~3日後に2回目のガス抜きを行う。同時に全面施用する肥料や粒剤を散布すると効率的。
- ⑦ ガスが抜けたのを確認し、作条施用する肥料や粒剤を散布し、畦立てしその後定植する。



イラスト等はHP等より引用

微粒剤散布方法(例)



バスサンバー

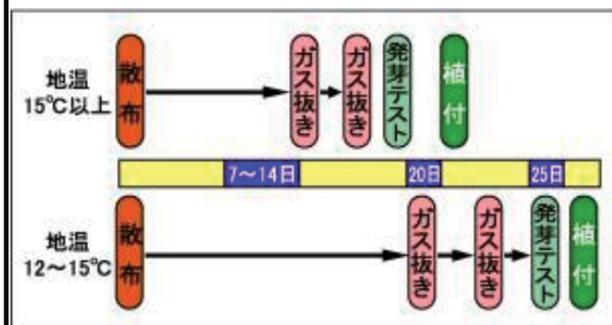


バスマック



袋に穴を開け、調節散布。縦横60cm間隔で散布すると、均一散布できる。

※散布から植付までの目安



土壌消毒剤使用の手引き

- クロルピクリン剤-1
- クロルピクリン剤-2
- ダゾメット粉粒剤

●土壌消毒剤の特性

有効成分名	病害	線虫	害虫	雑草	対象病害虫
クロルピクリン	○	○	○	○	つる割病, 紋羽病, 立枯病, センチュウ類, 一年生雑草 等
ダゾメット	○	○	○	○	つる割病, 紫紋羽病, センチュウ類, 一年生雑草 等
クロルピクリン+D-D(混合剤)	○	○	○	○	つる割病, 立枯病, センチュウ類, 一年生雑草 等
D-D	×	○	○	×	センチュウ類, コガネムシ類幼虫 等

●クロルピクリン剤-1

肝属・曾於地区さつまいも・でん粉対策協議会

I. 主な商品名	クロールピクリン
II. 特性・特徴	劇物で刺激性の強い催涙性ガス 特に取り扱い注意
III. 対象病害虫	センチュウ類, つる割病, 紋羽病, 一年生雑草
IV. 使用法	

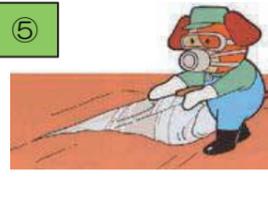


取り扱い時は、必ず
マスク、ゴーグル着用

- 【事前準備】
- 1 堆肥散布する場合は、処理予定1ヶ月前までに散布。
 - 2 消石灰等アルカリ資材を施す場合は、10日以上前に施用し、土となじませておく。
 - 3 前作の残渣は、できるだけ取り除く。

【全面土壌消毒】育苗ハウス等

- ① 処理前によくロータリーをかけて土を細かくする。
- ② 降雨やかん水により、土壌に適度な水分を確保。(握っても崩れない程度)
- ③ かん注機で30×30cmごとの深さ約15cmの位置に所定量を注入する。
- ④ 直ちに覆土し、必ずポリエチレン、ビニール等で被覆する。無被覆は不可。
- ⑤ 地温が15℃以上の時は処理後10日位で被覆を除去し、ガス抜きする。植付まではさらに1週間以上空ける。
- ⑥ 肥料や粒剤等を散布し、畦立てする。(初めてピクリン消毒する場合は、肥料を2割減らす)
- ⑦ ガスの臭いがしないことを確認後、施肥、作畦して植え付ける。一定期間経てもガスが抜けない場合、転耕して強制的にガスを抜く。



【畦内土壌消毒】本ぼ等

- ① 処理前によくロータリーをかけて土を細かくする。(全面施用の肥料や粒剤等を散布)
- ② 降雨やかん水により、土壌に適度な水分を確保。(握っても崩れない程度)
- ③ 作条施用する肥料や粒剤等を畦幅に散布する(初めてピクリン消毒する場合は肥料2割減)
- ④ マルチ畦内同時消毒機で、かん注、作畦、マルチを同時に行う。
- ⑤ 地温が15℃以上の時は処理後10日以降に切開し、ガス抜きをする。植付まではさらに1週間以上空ける。(下図 参考)
- ⑥ ガスの臭いがしないことを確認して植付。



標準的なくん蒸期間

地温	くん蒸期間
25℃～30℃	約10日
15℃～25℃	10日～15日
10℃～15℃	15日～20日
7℃～10℃	20日～30日

●クロルピクリン剤-2

肝属・曾於地区さつまいも・でん粉対策協議会

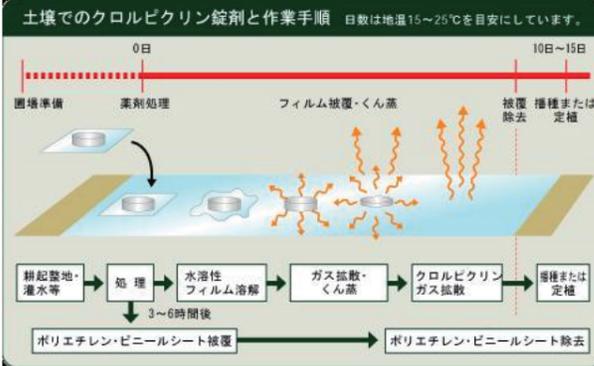
I. 主な商品名	クロルピクリン錠剤
II. 特性・特徴	劇物で刺激性の強い催涙性ガス 取り扱い注意
III. 対象病害虫	センチュウ類, つる割病, 紋羽病, 一年生雑草
IV. 使用法	



- 【事前準備】
- 1 堆肥散布する場合は、処理予定1ヶ月前までに散布。
 - 2 消石灰等アルカリ資材を施す場合は、10日以上前に施用し、土となじませておく。
 - 3 前作の残渣は、できるだけ取り除く。

【全面処理】育苗ハウス等

- ① 処理前によくロータリーをかけて土を細かくする。
- ② 降雨やかん水により、土壌に適度な水分を確保。(握っても崩れない程度)
- ③ 1㎡当り10錠を(内包装袋のまま)地表面に散布処理する。
- ④ その後トラクター等のロータリーで混和・覆土する。
- ⑤ 直ちに全面をポリフィルム等で被覆する。(ビニールは直接薬剤に触れると穴が開く恐れあり)
- ⑥ 処理後10日位で被覆を除去しガス抜きし、その後1週間後から植付可。



【畦内埋込処理】育苗ハウス等

- ①②は上記と共通
- ③ 肥料や粒剤等を散布し、畦立てする。
- ④ 30×30cm毎に深さ15cmの穴を明け、(内包装袋のまま)1錠埋め込む。
- ⑤ 直ちにポリ、またはビニールで全面又は畦面に被覆する。
- ⑥ 地温が15℃以上の時は処理後10日位で被覆を除去し、ガス抜きをする。(マルチ栽培の場合は、植穴を開けてガス抜きし、1週間後から植付可)



【畦面ばら撒き処理】育苗ハウス等

- ①②は上記と共通
- ③ 施肥後、畦の幅内に1㎡当り10錠を(内包装袋のまま)地表面に散布する。
- ④ 畦立てマルチャー機で畦を立てると同時にマルチをする。
- ⑤ 地温が15℃以上の時は処理後10日位で被覆除去しガス抜き、その1週間後から植付可。(マルチ栽培の場合は、植穴を開けてガス抜きし、1週間後から植付可)



※くん蒸期間は前項に準ずる。